

岐阜県立多治見高等学校

学 校 長 大嶽 和好
学 校 住 所 多治見市坂上町9-141 電話 0572-22-4155

1 会議の名称 岐阜県立多治見高等学校評議員会 (第1回)

2 会議の構成 委 員 小池 孝治 多治見青年会議所理事長
柴田 総江 多治見市子ども情報センター担当者
拝戸 佐江子 本校卒業生
若尾 淳子 本校育友会役員

(委員名は五十音順)

学 校 側 大嶽 和好 校長
高木 久美 教頭
秋松 繁子 事務長
伊藤 昭嘉 教諭 (教務主任)
田内 功 教諭 (生徒指導部長)
今井 雅人 教諭 (進路指導部長)
堀 裕邦 教諭 (特別活動部長)

3 会議の目的 学校運営や教育活動について地域社会や保護者などに説明責任を果たすとともに、要望や意見を幅広く聞き、地域社会からの支援・協力を得て、それを反映できる開かれた特色ある学校作りを推進する。

4 会議の開催 平成25年 7月 5日(金) 14:30~16:30 多治見高等学校校長室
委員4人と学校側8人が出席

5 会議の概要

学校からの説明

○ (校長より)

学校の教育目標について

創立70周年頃からの校訓「進取 努力 創造」は一般的な言葉が使われているが、それぞれの言葉について「努力」とは何か、「進取」とは何か、とかみくだいて伝えるようにしている。この校訓を広げたのが、「高校生活のあらゆる面において、ひたむきに自己の可能性を追求できる、視野の広い、心豊かな青年を育成する」という教育目標である。スローガンの「一人一人の文武両立」「さわやか挨拶日本一 多治高生」は校訓と教育目標を生徒に身近な形にして示したものである。文武両道を目指した学校はたくさんあるが、学校全体としての文武両道ではなく、一人一人が学習と部活動や生徒会活動などの両立を目指すところが本校の特長である。「さわやか挨拶日本一 多治高生」については日本一を目指す心構えを身につけてほしいという思いがある。生徒会が挨拶に関するアンケートを行い標語も募集している。自然な挨拶ができるということは一生ものであり、啓発に努めていきたい。教務部生徒指導部進路指導部が中心となって教育目標の実現のために取り組んでいる。

○ (生徒指導部より)

前年度の成果と課題について

制服のマイナーチェンジによりしっかりと身だしなみができるようになり、遅刻者の減少に伴い学校全体が落ち着いてきた。しかし交通安全については昨年救急車で運ばれるこ

ともあったため力を入れていくことが大切である。マナーを守り挨拶を心がけることで地域に信頼される学校でありたい。

今年度の目標について

生徒に語りかけることで内面から育てていき、自分で自分を一番信用できる人間に育てられる生徒にしていきたい。

携帯電話についてはスマートフォンの登場から授業中を含め携帯使用が増加したため、今年度は特に重点的に指導していきたい。生徒に携帯電話の利用状況と学習時間についてアンケート調査をしたところ長時間の使用が確認できたため、結果を生徒および保護者に示して考える材料にしていきたい。

男子の頭髪についてはこれまでルールがなかったが今年度は基準を設けたことで極端に後や横が長いということがなくなった。女子のスカートについてはバックルと校章の刺繍が見えるようにという指導をしている。昨年までは登校指導だけであったが今年度は下校指導も行う。交通安全については4月に交通安全講話を行った。自転車点検も年2回行い駅前歩道駐輪場への巡回も行っている。朝の挨拶運動を育友会、職員、生徒会が一体となって進める。

○ (教務主任)

個性と多様性を尊重し、進路実現する3年間を見通した指導

生き方・進路を考える時間として今年度より「朝読書」を始めたが、非常に静かに集中した時間が流れている。

基礎学力充実のため、きめの細かい、丁寧で面倒見のいい学習指導

授業の充実ということでよりよく質の高い授業をめざし、月木の7限授業などに取り組んでいる。全員参加の土曜補習は95%の参加率である。また計画的な週末課題の取り組みを行い、その中で計画的継続的に取り組めるようにということとやり切ることで気持ちを育てていきたい。

一人一人の文武両立の実践

生徒は優先日が決まっていることでわかりやすいと評価している。

その他特色ある教育活動

優秀な部活動だけでなく、さまざまな機会に表彰を設け、がんばりを評価する場を設定している。

自然科学コースは理数に興味のある生徒が集まり、昨年度の名古屋大学の合格者も自然科学コースから出た。校外研修や出前講座など特色ある取り組みをしている。

○ (進路指導部長)

今年度のスローガンとして「正念場」「創造」を掲げた。平成23年度に国公立への進学が落ち込んだため、昨年度巻き返し、今年度はその巻き返しをさらに進めたい。大部分の生徒が国公立を目標に入学しており、自己実現できるよう支援したい。また社会の変化、生徒の変化に伴って、これまで通りの進路指導ではなく新しい価値観を創造することも必要になっている。

データ解析をもとに見ると、全統の偏差値で見ると理系は50以上、50より低くても国公立に受かるが、文系は50以上でも受かりにくい。生徒の力を伸ばすため、指導内容・方法の充実を図り、アラカルト方式の補習やサタディスタディを推進していきたい。また、先輩と語る会を行い、直接受験や大学の話などを聞ける機会を設ける。7月23日には大学見学と進学フェスタへの参加、講演などを予定している。11月には学部学科講話も予定している。生徒一人一人への呼びかけを心がけ、諦めさせないように指導援助していきたい。キャリア教育への転換として大学を卒業しても就職難という社会情勢がある。大学に入学する前に、自分の選択が正しいのかをきちんと考えることが大切である。2年生のうちにゼミ学習などを通して自問自答することでその機会を作る。

○ (特活部長)

生徒の活動紹介

4月対面式、初々しい1年生の姿が見られた。生徒会長の「素晴らしい後輩が多治見高校に入ってきてくれたことをすごくうれしく感じました。…また、新入生を支えてあげられるような先輩になりたいと思いました」とあるように、お互いが高められるような状況になるとよい。

6月のスポーツ交流大会は9月から移動して3年目である。写真を見てもらうと生徒の生き生きとした姿、応援し合う姿がわかってもらえると思う。成し遂げた喜び、達成感を一人一人に味わってもらいたい。9割の生徒が団結の高まり、満足感を感じた行事であり、9月の桔梗祭（学校祭）につなげていきたい。またクラスごとに生徒会から交流大会の様子をまとめた通信を発行し、行事の終わった後もクラスで語り合う姿が見られた。

修学旅行について

今年度より北海道から沖縄へ修学旅行先が変更になった。実施後のアンケートでは修学旅行全体に対して、「とても満足」79%「まあまあ満足」19%という結果で98%の満足度であった。現地での平和学習についても「とてもよい学習ができた」62%「まあまあ学習ができた」35%で97%の満足度、現地での平和講話についても「とてもよい学習ができた」60%「まあまあ学習ができた」36%で96%の満足度であった。沖縄地上戦での体験や捕虜としての体験はなかなか聞くことのできないものであり、多くの生徒にいろいろなことを考えさせるものであった。「戦争でなくなってしまった多くの人々の存在があって、今の私たちがいるから、その亡くなってしまった人々に恥じないように生きるべきなのだ」と強く思いました。」という生徒の感想があり、「生きる」力をつける修学旅行になったことがうかがえた。

挨拶について

来週1週間挨拶運動を行う。アンケートの集計がすんだばかりだが、スローガンとして「この君 愛はあるのか あいさつに」「そうだ あいさつしよう」「あいさつってすばらしいなあ」の3つが選ばれたので、ポスターを作成し呼びかけをしていきたい。

部活動の成績

陸上部の3年加藤史章が800mで東海大会出場、水泳部400m個人メドレーで1年の林大雅が東海大会出場を決めている。多くの部が県大会に出場しており、切磋琢磨しながら成績があがるようにしたい。

学校評議員からのご意見・ご感想

意見 1 今日初めて校内をまわらせてもらったが、雰囲気がいよと感じた。人数の割に教室が狭い。もう一まわり大きいとよいのではないか。

進路決定の検証ができるのがすばらしい。先輩の話が聞けるのも進路に悩む生徒にはプラスになる。最近の子は塾などで学力面では力をつけていると思うが、コミュニケーション能力を育成するために対外事業などがあればいいと思った。

スマホは必要不可欠になってきている。その危険性などを指導できる時間があるとよい。

学校 1 スマホになってから危険度は大きくなっている。本校でも10月にKDDIから講師を派遣してもらい講演を行う予定になっている。

意見 2 今年で評議員も3年目で今年で最後だと思う。方針や目標など毎年きめ細かく取り組んでいて、さらにもう一段重ねたと思う。学校からの説明にあった、やりきったという実感は粘り強さに欠けた最近の子には、とても大切だと思う。子ども情報センターを利用する生徒は多治高生が一番多い。定期テストに合わせて2階の研修室も開放しているが、自主的に電気やエアコンなど利用者に管理してもらっている。片付けや挨拶などきちんとしていてうれしいと職員間でも話している。

意見3 昨年も同じ意見を述べたが、やはり教室が狭く、机が小さい。直接書き込める教科書だといいが教科書、ノート、サイドブックだと机が小さい。図書館の充実ぶりに驚いた。一人あたりの貸出冊数は6冊ということだったが少ないと思う。自分で読んで理解するプロセスは大切で図書部などがあって活動できるとよいのではないかと思った。新刊も充実しており司書さんにも頑張ってもらってもっと前面に出していいと思う。

意見4 先輩との交流会については、自分の子どもも卒業した先輩から受験の時の気持ちを聞いたりしたことがとてもありがたかった。こういう機会は大切にしてほしい。
質問だが市内の高校生の逮捕があったが、そういう時学校ではHRなどはあるのか。

学校2 本校と関わりがあるような場合は生徒指導部長から朝会で連絡がありHR担任に話すように指示が出る。本校と関わりがない場合は、知り合いなどあると微妙なところもありすべて触れるわけではないが、伝えるべきことは伝えるようにしている。

JAZZ IN PAPAS からミニストップの坂を自転車ですごい勢いで走っている多治高生がいて、事故が起きたらとヒヤヒヤする。

学校3 問題のある乗り方の自転車についてはほかの所でも見られ申し訳ない。

学校4 坂や一方通行などがあり、4.5月は自転車になれていない1年生の転倒などもあった。入学前の指導から考える必要がある。三年後には自動車免許を取得し交通社会に加わるための前段階として考えさせていきたい。

6 会議のまとめ

これからも地域から、または個人からの意見をいただきたい。HP が学校の窓となっている。専門の担当職員がいるわけではないが、忙しい中、担当者が更新に努めており意見などいただけるとありがたい。本日はありがとうございました。